

旧城下町における視距離別の重要な景観構成要素 —大分県竹田市城下町地区の街路景観と俯瞰景観に関する研究—

○後藤大輝 * 姫野由香 ** 清川智裕 * 馬場翔太郎 * 畑早和 ***

1. 研究の背景と目的

2004年に景観法が制定 建築物や工作物、景観重要建造物や樹木の指定といった景観構成要素単位、いわゆる「点」の価値に依拠した景観形成が行われている

既往研究
街路からの見え方¹⁾や高所から俯瞰すること²⁾を考慮した景観整備の重要性が指摘されている

人々によって重要とされる景観構成要素を街路景観(線)や俯瞰景観(面)別に明らかにする必要がある

視点による見え方の違いに関する研究

松本ら: 人々によって重要とされる景観構成要素は、視点の高さによって異なること³⁾
栗山ら: 俯瞰景観において重要とされる景観構成要素の抽出⁴⁾

俯瞰景観での景観構成要素の抽出に留まっており、街路景観との差異については言及されていない

目的

街路景観と俯瞰景観において
景観の一体感を創出する上で重要とされる景観構成要素とその差異を明らかにする

1) 土佐道子, 澤本昌典, 栗田浩 (2009) 「神戸市市街地における山並み眺望景観とシークエンスからみた景観構成に関する研究」日本造園学会全国大会研究発表論文集 pp.855-858
2) 田中由紀, 金井利明, 木島知子 (2015) 「都市近郊眺望景観における重要な景観構成要素の把握と考察」景観・デザイン研究論文集 No.11 pp.283-289
3) 松本浩司, 木島知子, 木島知子 (2019) 「眺望景観の高度化と景観のまちづくり」日本造園学会全国大会研究発表論文集 Vol.68 No.713 pp.1597-1603
4) 栗山由子, 南野明也, 三輪謙一, 末谷伸吾, 安田昌彦 (2009) 「都市近郊眺望景観における眺望景観の高度化に関する研究」日本造園学会全国大会研究発表論文集 Vol.74 No.644 pp.2207-2214

3. アンケートによる景観の一体感創出の要因分析

景観の一体感を創出する要因を特定するため、計89名のまちあるきの後、写真投稿を伴うアンケートを実施し、テキストマイニングによる分析を行った

表1 まちあるき・アンケートの概要
アンケート項目のうち
街並みに一体感を感じたか否かの理由を集計した
設問5)の回答から共起ネットワーク図を作成した

項目	1	2	3	4	5	6	7
性別	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性
年齢	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
職業	学生	会社員	自営業	公務員	主婦	その他	その他
回答数(人)	29	60	69	69	69	70	55
回収率(%)	68	72	74	74	74	75	78

「城下町らしい場所や要素」の回答理由として添えられた写真を基に撮影箇所を特定した

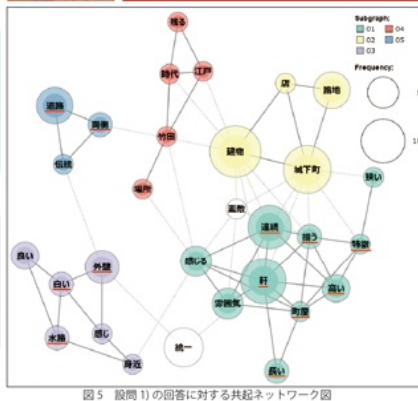


サブグラフ01

「軒」を中心とした
「連続」「揃う」「高い」「長い」「町屋」「特徴」の共起性
▶ 隣り合う建物の軒の長さや高さが揃うことが町屋の特徴として認識されており一体感を創出する要因の一つ

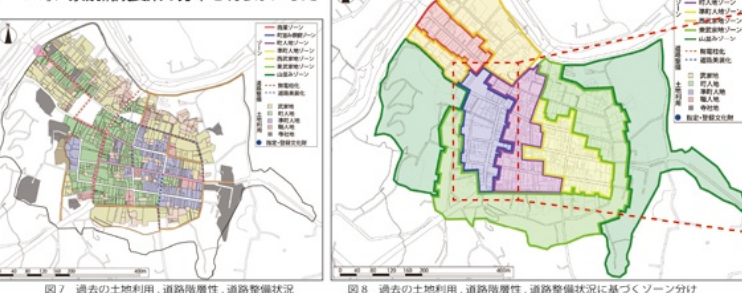
サブグラフ03

「外壁」「白い」「水路」の共起性
サブグラフ05の「道路」「両側」との共起性
▶ 街路景観として水路と白い外壁の共存といった目線以下の箇所が一体感を創出する要因の一つ



5. 竹田城下町地区のゾーン分け

多様な景観が存在する竹田城下町地区において、過去の土地利用・建物要素に基づく道路の階層性・道路整備状況を考慮したゾーン分けを行い、ゾーン毎に景観構成要素の分布を明らかにした



5. 総括

竹田城下町地区を対象としたアンケートの回答とワークショップの意見を①テキストマイニングと②AHPを用いて分析することで、景観の一体感を創出する上で重要とされる景観構成要素とその差異を明らかにした

- ①アンケートの回答を基に共起ネットワーク図を作成し
 - ・建物の高さが統一されていること
 - ・隣り合う建物の軒の長さや高さが揃っていること
 - ・目線以下の身近な箇所が一体感を創出する要因の一つであることが考えられた
- ②ワークショップの意見から抽出した要素の対比較を行うアンケートを実施し、その結果を基にAHPを用いた分析を行った
 - 【大項目】「建物」は、俯瞰景観では最も重要度が高いが、街路景観では「空地」が最も重要度が高いことが明らかとなった
 - 【中項目】街路景観では「詳細意匠」が最も重要度が高いが、眺望景観では「詳細意匠」の重要度は最も低いことが明らかとなった
 - 【小項目】「外壁」「屋根」「看板」「道路」は、街路景観と俯瞰景観に共通して「色」が最も重要度が高いことが分かった
 - 全ての景観構成要素において「素材」は、俯瞰景観より街路景観における重要度が高いことが分かった

2. 研究対象地の概要【竹田市城下町地区】

多様な街路景観が存在する

①底や軒が連なる通り②門や塀が連なる武家屋敷通り③盆地を活かした俯瞰景観



4. 視距離ごとの重要景観構成要素

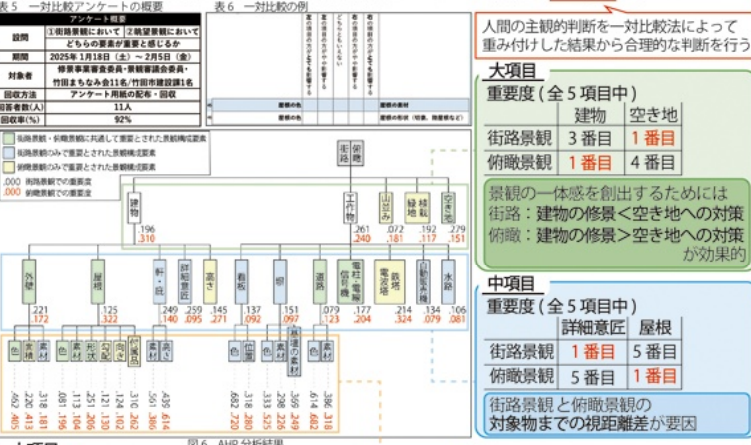
街路・俯瞰景観別に重要景観構成要素を明らかにするため専門家を対象にワークショップを実施

重要とされる景観構成要素
ワークショップで街路景観・俯瞰景観のそれぞれにおいて景観の一体感を創出している、乱れていると考えられた要素
重要とされる景観構成要素を大・中・小項目に分け、街路景観・俯瞰景観別にまとめた階層図を作成した

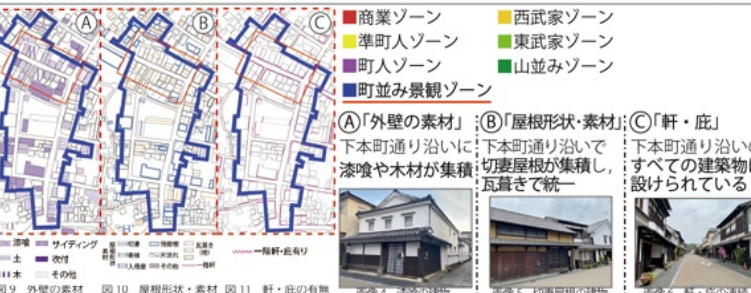
大	中	小	その他
建物	外壁	色	素材
工作物	屋根	形状	高さ
その他	空地	色	高さ

街路景観に共通して重要とされる景観構成要素
「外壁」「屋根」: 建物の主要構造部
街路景観のみで重要とされる景観構成要素
「軒・庇」「詳細意匠」: 建物の主要構造部以外
「看板」「塀」「信号機」「自動販売機」「水路」「緑地・植栽」: 工作物
俯瞰景観のみで重要とされる景観構成要素
「空地」「電線」「道路」: インフラ
「鉄塔・電波塔」「山並み」「棟・パラペット」: 景観を構成する比較的大きな要素

全ての重要とされる景観構成要素の街路景観と俯瞰景観における重要度とそれらの差異を明らかにするためワークショップ参加者を対象に要素同士を対比較するアンケートを実施しAHP分析を行った



人間の主観的判断を対比較法によって重み付けした結果から合理的な判断を行う
大項目
重要度(全5項目中)
街路景観 1番目 3番目
俯瞰景観 3番目 4番目
景観の一体感を創出するためには街路・建物の修景>空地への対策
俯瞰: 建物の修景>空地への対策が効果的
中項目
重要度(全5項目中)
街路景観 1番目 5番目
俯瞰景観 5番目 1番目
街路景観と俯瞰景観の対象物までの視距離差が要因



5. 総括

竹田城下町地区を対象としたアンケートの回答とワークショップの意見を①テキストマイニングと②AHPを用いて分析することで、景観の一体感を創出する上で重要とされる景観構成要素とその差異を明らかにした

- ①アンケートの回答を基に共起ネットワーク図を作成し
 - ・建物の高さが統一されていること
 - ・隣り合う建物の軒の長さや高さが揃っていること
 - ・目線以下の身近な箇所が一体感を創出する要因の一つであることが考えられた
- ②ワークショップの意見から抽出した要素の対比較を行うアンケートを実施し、その結果を基にAHPを用いた分析を行った
 - 【大項目】「建物」は、俯瞰景観では最も重要度が高いが、街路景観では「空地」が最も重要度が高いことが明らかとなった
 - 【中項目】街路景観では「詳細意匠」が最も重要度が高いが、眺望景観では「詳細意匠」の重要度は最も低いことが明らかとなった
 - 【小項目】「外壁」「屋根」「看板」「道路」は、街路景観と俯瞰景観に共通して「色」が最も重要度が高いことが分かった
 - 全ての景観構成要素において「素材」は、俯瞰景観より街路景観における重要度が高いことが分かった